

# 第 2 部 事業総括

# 1 若手研究者の育成

21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」では、PD・RA制度や派遣・訪問研究員制度の導入、各拠点充実事業の推進など、研究と教育の一体化による世界水準の研究者の育成を図った。

## I COE研究員 (PD・RA)

COE研究員(PD)制度は、学内外の35歳未満の博士学位取得者(単位取得満期退学者を含む)を公募により採用し、日本学術振興会特別研究員と同程度の給与を支給し、研究に専念できる条件を整えるものである。PDに対しては、その専門に応じて本プログラムの研究課題の一部を担当させ、自立した研究者としての資質の向上を図った。PDは、本プログラム推進期間中の5年間で、実数9名、延べ16名を採用した。そのうち、1名が国立大学専任講師に採用され、1名が博士の学位を取得した。さらに、本学の非常勤講師として1名が採用された。

一方、COE研究員(RA)については、学内の博士後期課程院生を在籍のままCOE研究員として採用し、事業推進担当者の指導を受けつつ調査研究に従事させ、実際の資料収集とその解析について専門的スキルを修得させると同時に、高度な研究能力を身につけさせた。RAは、5年間の事業推進中、実数12名、延べ22名を採用した。特に、RAに対しては、事業推進担当者の指導の下、研究課題に関する学力を向上させると共に、学位論文作成に向けての指導を行った。その結果、3名が博士の学位を取得した。

また、本プログラム採択後の教育環境の下で、歴史民俗資料学研究科で14名の院生が新たに課程博

士の学位を取得した。そのうち11名が民俗民具研究分野の課程博士であり、これは本プログラムによる人材育成の成果があらわれたものといえよう。PD・RAの論文・調査報告などの成果は、レフェリー制度をとる『年報 人類文化研究のための非文字資料の体系化』や紀要『歴史民俗資料学研究』に主に掲載され公開された。PD1名の学位論文が著書として出版社から公刊されている。さらに、PD・RAの若手研究者の最終研究成果として、2008年3月に『非文字資料研究の可能性—若手研究者研究成果論文集—』と題する論文集がまとめられ、発刊された。

このように、本プログラムの特徴的なPD・RA制度により、若手研究者の育成に関しては大きな成果があったと評価されよう。しかし、後継組織「非文字資料研究センター」において、この制度を継承するならば、プログラムに適合する研究の専門性や、研究費の支給額、現行の1年間という採用期間の見直しなど、今後、改善しなければならない問題が伏在することも判明した。

## II 若手研究者海外派遣事業

PD・RAを中心に若手研究者については、世界各地の研究者との交流を重視し、一流の研究者に直接指導を受けさせるために、東アジアおよび欧米の海外提携研究機関へ2週間程度派遣した。

本プログラム事業推進中の5年間で派遣した海外提携研究機関は4か国8研究機関を数える。それらの機関を列記すれば、華東師範大学・北京師範大学・浙江工商大学・中山大学・香港大学(以上中国)、延世大学(韓国)、ブリティッシュコロンビア

大学（カナダ）、サンパウロ大学（ブラジル）である。

それらの海外提携研究機関へ派遣されたPD・RAをはじめとする研究員の内訳は、華東師範大学3名、北京師範大学2名、浙江大学1名、中山大学2名、延世大学1名、ブリティッシュコロンビア大学2名、サンパウロ大学2名となる。

派遣期間は2週間程度と決して長くはないが、帰

国後、海外で収集した研究資料や修得した知識を自己の研究に役立てることにより、各自の研究は飛躍的に進展した。ただ、今後、後継組織「非文字資料研究センター」において、この派遣研究員制度を継続、充実させるためには、滞在期間の大幅な延長や、派遣中の単位互換性などの問題が大きな課題として残されていることを指摘しなければならないであろう。

## 2004年度～2007年度 海外提携研究機関派遣研究員一覧

## 2004年度

氏名	派遣先提携研究機関名	派遣期間	研究課題
藤永 豪	北京師範大学 民俗学与文化人類学研究所	2004年11月19日～ 2004年12月1日	北京市郊外における農村の 景観変化に関する調査・研究

## 2005年度

王 京	北京師範大学 民俗学与文化人類学研究所	2005年7月6日～ 2005年7月19日	1930～1940年代の 日本民俗学と中国
彭 偉文	華東師範大学 中国民俗保護開発研究センター	2005年9月17日～ 2005年9月30日	上海およびその周辺における さまざまな霊獣舞の研究
宮本 大輔	浙江大学 日本文化研究所	2005年11月1日～ 2005年11月14日	浙江人の言語評価 —大学生を中心に—
櫻村 賢二	延世大学校 中央博物館	2005年12月1日～ 2005年12月14日	オートバイ宅配便からみる 韓国社会について
大西 万知子	サンパウロ大学 日本文化研究所	2005年12月2日～ 2005年12月18日	アジア・ヨーロッパ・ ラテンアメリカの情報発信 (展示)の発達比較

## 2006年度

王 京	華東師範大学 中国民俗保護開発研究センター	2006年7月2日～ 2006年7月15日	戦前期の上海と民俗学
本田 佳奈	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科	2006年10月1日～ 2006年10月15日	ブリティッシュコロンビア における日系移民家庭への 聞き取り調査と資料収集
國弘 暁子	サンパウロ大学 日本文化研究所	2006年10月30日～ 2006年11月15日	ブラジルのトラベスティ に関する人類学的調査研究
彭 偉文	中山大學 中国非物質文化遺産研究センター	2006年11月1日～ 2006年11月14日	日本の獅子舞を中心に 東アジアにおける霊獣の舞研究

## 2007年度

氏名	派遣先提携研究機関名	派遣期間	研究課題
坂井 美香	華東師範大学 中国民俗保護開発研究センター	2007年8月13日～ 2007年8月26日	電気映像を用いない 情報伝達の方法と効用および 語り芸について
國弘 暁子	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科	2007年10月1日～ 2007年10月15日	インド、グジャラート州から カナダへの人の移動と、移住者 の生活空間に関する調査研究
王 京	中山大學 中国非物質文化遺産研究センター	2007年11月5日～ 2007年11月18日	戦前広州における民俗学活動

### Ⅲ 各拠点充実事業

拠点の中核である歴史民俗資料学研究科は、歴史学、民俗学の分野で新しい知見を開きうる研究能力を持つと同時に、文書資料・民俗資料、なかんずく非文字資料の扱いにも習熟した人材の育成に努めてきた。「人類文化研究のための非文字資料の体系化」では、膨大で多様な非文字資料の中から、図像、身体技法、環境・景観を選んで研究の対象としたが、こうした非文字資料を取り扱ってきたのは、主に博物館などの学芸員である。そのため、本プログラムの研究課題にも、当初から、これまで経験に頼って調査研究に従事してきた学芸員に対して、非文字資料に関する理論や方法を体系的に学ぶ学芸員の育成を謳ってきた。

そうした課題に取り組むため、歴史民俗資料学研究科では、本COEプログラムに関連して、2004年度より大幅なカリキュラムの改定を行った。それまでの文献史料学と民俗民具資料学の2科目群に加えて、新たに博物館資料学を開設すると共に、ネイティブスピーカーによる講義（英語、中国語、日本語〈外国人留学生対象〉）及び実習科目（博物館実習、民俗民具調査実習等）の整備、向上を図り、将来を見据えた世界に通用する若手研究者の育成に努めた。

新設の博物館資料学関係の講義科目は、本COEプログラムで採用したCOE教員（特任教授）1名が博物館資料学特論を、また、COE教員（非常勤講師）3名が博物館情報資料学特論、博物館展示資

料学特論、博物館図像資料学特論をそれぞれ担当した。

そのほか、若手研究者育成事業の一環として、年間一定額の予算を各研究科に出して教育研究の向上を支援した。歴史民俗資料学研究科では、2004年度に修士論文集『対話する歴史と民俗—歴史民俗資料学のエチュード—』を刊行した。

また、2005年度からは、「歴史民俗資料学叢書」と銘打って、学位取得者の博士論文を毎年1冊ずつ著書として公刊することになった。2005年度には、歴史民俗資料学叢書1『室町幕府足利義教「御前沙汰」の研究』（鈴木江津子著）、2006年度には、同叢書2『財界人の戦争認識—村田省蔵の大東亜戦争—』（半澤健市著）、2007年度には、同叢書3『1930、40年代の日本民俗学と中国』（王京著）をそれぞれ刊行した。

この間、拠点である歴史民俗資料学研究科と中国言語文化専攻の課程博士修了者の進路状況では、歴史民俗資料学研究科修了者2名が私立大学の助教授、公立短期大学の専任講師として採用され、中国言語文化専攻の修了者1名も本学の専任講師として教育研究にあたっている。

なお、本プログラムの拠点として、PD・RAの採用者と非採用者との間に研究条件で多少の格差が生まれる結果となったことは、今後の反省点としなければならない。



歴史民俗資料学研究科 講義風景



歴史民俗資料学研究科 刊行物